

三浦市民生活向上会議会報

〒238-0102

神奈川県三浦市南下浦町菊名1258-3

三浦市総合福祉センター

電話 046-888-7347

発行：社会福祉法人三浦市社会福祉協議会

発行責任者：出口 道夫

Vol.22

活動評価促進部会の開催

前回八月の開催から三ヶ月が経った今回。事務局より地域福祉活動計画（以下「本計画」）の策定状況―主に団体ヒアリングと住民懇談会―について報告し、各委員よりご意見を頂きました。

1. 計画策定の流れについて

会報十七号に掲載したフローチャートと同じ資料を用い、策定の流れについて改めて説明をした。

八月までの住民懇談会では、困りごとを聞くことを目的としていた。しかし、効率的に計画を立てるために団体ヒアリングは「困りごと」を聞く場として、「住民懇談会」は困りごとを共有し、「解決のために何ができるか？」を考える場として、役割を分けることにした。

団体ヒアリングと住民懇談会を重ねてきて、たくさんの方と会ってお話すること、社協について知ってもらうことの大切さを再確認できた。今後時間もかけて、丁寧に住民懇談会等の市民と話し合う場をたくさん設けたい。当初、住民懇談会は三崎地区・南下浦地区・

初声地区それぞれ三ヶ所ずつ、計九回の実施を予定していたが、その重要性から実施回数を増やし、十五ヶ所での実施を目標としていくことにした。

委員意見・職員回答▼いいことをしていると思う。「社協って何してるの？」と聞かれることが多い。社協の事業・活動について周知を図ることも必要なこと。（世古委員）▼課題の分類・分析時に、本計画には入らない（福祉的課題ではない）意見も貴重な意見。行政への投げかけするなどしては？（菊地委員）▼スケジュールについて。住民懇談会を充実させたいのはいいことだが、前計画が今年度いっぱい計画なので、ズルズルと（遅れて）いかないかと心配。（菊地委員）▼現在までに実施した住民懇談会は南下浦・初声・三崎の三地区にてバ

ランスよく開催しているのか？それぞれの地域での身近な支え合いを把握するために、意図的に開催地を選ぶべき。（菊地委員）▼計画策定に関係なく、社協として日常的に懇談を重ねていくことが大切。

（大野委員）▼市民が市役所と社協、どちらを見たらいいのか？迷わないように、社協としての立ち位置をはっきりさせる必要がある。（大野委員）三浦市の「財政難」という背景を踏まえて、課題の整理を行うべき。本来は行政がやるべきことだが、財政難を理由にできていないことなのか？それとも今ある制度上の問題なのか？社協が市民と共に行政に訴えるべき課題なのか？など。（大野委員）▼地域を捉える上で、市民意識の変化など歴史的推移を見て、分析すべき。（大野委員）▼市民の主体性をいかに引き出すか、そしてその主体性をいかにしてふくらませるかが大切。そうでないと、ただ計画を作っただけになってしまう。（大野委員）▼意見の分類・分析は大変な作業になると思う。どのように進めるのか？（世古

委員）▽どのように進めるか、方法については現在検討中。社協職員全員で考える機会を作る予定。活動評価促進部会の皆様にも考えて頂きたい。（杉崎）

2. 団体ヒアリングについて

団体ヒアリングの実施状況について説明した。六月から、ボランティア団体や福祉当事者団体、企業等二十団体に実施してきた。今後一団体実施予定。そこで聞いた「三浦市で活動しているの困りごと」「三浦市に住んでいての困りごと」を障害・高齢・子ども・地域・災害・インフラ・医療・NPO・行政・社協と分類し、整理した。

3. 住民懇談会について

現在四ヶ所で実施している。困りごとの情報を共有することとが住民懇談会の第一と捉えている。

そのために事務局では、住民がなじみやすいよう手書き・イラスト入りで「三浦市のいま」という資料を作成した。その内容は、団体ヒアリングから聞き出した課題を「①子どもの遊び場がない（子どもの問題）」「②東日本大震災：その後何かに繋がっているか」「③防災三浦



会議の様子。多くの意見があがりました。

スタイルをとっている。

今回の活動評価促進部会で、模擬住民懇談会を行い、委員から「課題解決のための意見」と「住民懇談会をやってみての感想・改善点などの意見」を得ようとしたが、事務局の調整不足でできなかった。

委員意見・職員回答▼

▼住民懇談会のやり方について意見を聞きたいのであれば、実際に住民懇談会をやっている映像を見る方がいいのではないかと(大野委員)▼困りごとをまとめた資料について。高

が聞こえない(情報の問題)「④将来の介護が不安(高齢者の問題)」「⑤三浦市ならではの人間関係」「⑥障害のある子どもや大人の支援と理解」「⑦あれもこれも、三浦市にはない!」の七つに分類したもので、聞き出した意見の一部を懇談会参加者に伝えている。そして、「解決のためにできること」「今地域でやっている取り組みで、困りごとの解決のために役立つ活動」「今と昔を比べてみてどうか?」などと参加者から意見を求めている。また、話しやすいよう、五、六人のグループに職員が一人入る車座の

年齢者が主語になっている困りごとについての意見が少なく、高齢者を支える世代としての意見が中心になっている。もっと住民目線に基づいてやったらどうか?(津島委員)▼意見の分析について。スタンダードな住民調査の情報があると、三浦市について分析しやすくなるのでは?(津島委員)▼住民懇談会と団体ヒアリングの区分けについて。住民懇談会を、本来実施すべき区という単位だけではなく、活動団体等のグループにおいても実施している。また、三地区それ

ぞれまんべんなく話を聞いているか?狙いをもって、住民懇談会の開催先を選ぶべき。(菊地委員)▼地域福祉に理解がある人たち(ボランティア団体等)からは具体的な解決策を聞きだし、地域福祉への関わりが薄かった人たち(区の集まり等)には、関心を持ってもら

きつけたい。どちらきっかけの場としたい。どちらも計画を立てる上で大切なため、開催対象を絞ることは難しい。できるだけ多くの場を持ちたい。(杉崎)▼事前にヒアリング・懇談会の趣旨が参加者に伝わっていると、意見が出やすいのではないかと、普段生活をしていて、実は困っていることがあったとしてもそのニーズが意識化されていない。内省的に捉えてみて、「そういえばそうだ」と思うもの。(大野委員)

▼意見について「三浦市社協ではこのように対応している」と答えられるようにしておくことよい。(菊地委員)▼今回が初めて、地域に出て住民の方と直接お話しして、顔を覚えてもらう・社協とは何かを知ってもらう機会となっている。「ここからが第一歩」だと事務局は考

えている。今後、今回築いた関係が無駄にしないよう、ずっと続けていきたい。続けていってよやくやく、意見を交わせるようになるだろう(福島)▼(話をする住民は)相手を見て、自分の意見を「どこまで話していいか」と考えるもの。時間をかけ、心理的距離を近づけることが大切。その信頼関係が元になって、「じゃあ自分たちも行動を起こしてみようか」となるかもしれない。職員は、社会福祉の実践家として、いい体験をしている。(大野委員)▼「前回の計画策定時もこういうことをやっている」こと、繰り返しアプローチしていることを伝えるべき。前回の計画策定時に懇談会等実施したグループに、再度声を掛けてみては?(津島委員)▼十年前は、もっと社協と住民の関係が近かった。住民も活発だった。(大野委員)▼前

回(二〇〇八)の策定時は、「社協がそういう計画作ってる」ということが評判になっていた。懇談会を受ける住民が「次はうちの番か」と捉えてくれるような状態だった。(佐藤)▼国としても計画策定を進めている

時期だった。(大野委員)▼パワフルな高齢者について意見が挙がっている。計画に定めるべき。また、懇談会の機会を通じてエンパワメントすべき。(大野委員)▼地域福祉に積極的な人たちを伸ばしていくことにより、地域住民の力の底上げを図ることが重要。そうすることで、積極的な人に消極的な人も引っぱり上げられる。(大野委員)▼今までの社協の実践を見直し、今後の新たな社協のあり方を打ち出すような計画にして欲しい。(大野委員)

4. 今後の方向性について「前計画の評価を行うべき」であるという意見が多く挙がった。また、遅れているタイムスケジュールについても、次回会議で改めて報告する。

▼会議の進め方について、不手際があり申し訳ありませんでした。今後御指導頂けるとありがたいです。よろしくお願致します(杉崎)

編集後記

▼会議の進め方について、不手際があり申し訳ありませんでした。今後御指導頂けるとありがたいです。よろしくお願致します(杉崎)

十二月十六日に
ボランティア部会
開催予定です